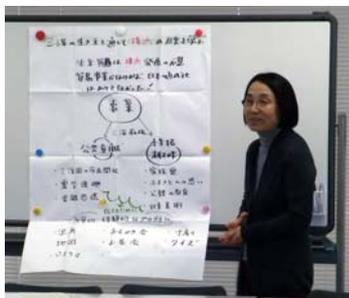


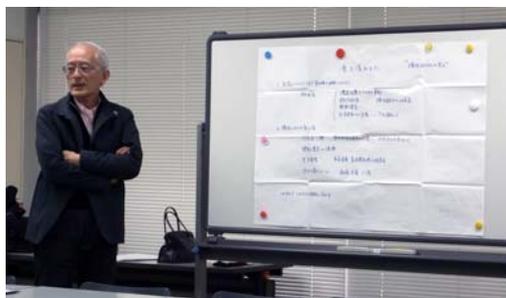
前半は出前授業の準備、後半は漢詩分科会メンバーによる和歌についての発表がありました。

第四回 出前授業検討会

A・B・Cの各班が模造紙を使って「伝えたい事項」を発表しました。



A班



B班



C班

A班は3つの大きな柱「事業」「公共貢献」「性格・趣味」のそれぞれに生糸貿易や震災復興、家族愛などの各テーマを展開して、伝えたい事項をまとめました。子どもたちに伝えるには感覚的・体験的なプログラムが良いとして、お茶会やクイズなどの形式が挙げられました。

B班はまず、昭和34年に神奈川県立図書館で開催された「三溪遺墨展」が、神奈川新聞の小・中学生のページで取り上げられた例を紹介しました。三溪さんの生涯について伝えるために少年少女向けの伝記本や、理解を深めるためのかるたを作りたいという提案がありました。

C班は、小学生向けにQ&Aで構成されたパンフレットを作るという想定で出し合った質問集を提示しました。併せて、その答えとして語りたいたいエピソードを、膨らませながら紹介しました。

漢詩分科会報告 和歌を読み解く

発表者：西津貴美子、大川道子

講評：鄧捷

『三溪集』に収録されている和歌から三首について、漢詩分科会での議論を踏まえて読み解かれた歌意が披露されま



した。養老の滝をうたった「大君の大御車よせましし多藝の御山のさくら花ちる」や、京都の高山寺を詠んだ「老僧の登る坂路をのぼりゆけば夕雲やどる梅尾の寺」は、絵のように風景を切り取って詠まれています。また、「春の月青琅玕の玉とりて舞に妙なる君にかづけん」からは、私たちの想像とはかなりかけ離れた三溪翁像が垣間見えます。

発表された解釈について鄧先生から、三溪翁の和歌と中国の漢詩との違いや、歌から読み取れる作者の志について講評がありました。

会の終わりに顧問の内海先生に今年一年を総括していただきました。

発表前に3人で内容を打ち合わせています

